

氏名 妹 尾 昂

学位の種類 医学博士

学位授与番号 乙 第 288 号

学位授与の日付 昭和43年 6 月30日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)学位論文題目 **Protein concentration of synovial fluid in chronic
rheumatoid arthritis (Estimation of protein in the
synovial fluid of chronic rheumatoid arthritis by
gel filtration and paper electrophoresis)**
慢性関節リウマチにおける関節液の研究
(gel filtration および滲紙電気泳動法による測定成績)

論文審査委員 教授 緒方正名 教授 児玉俊夫 教授 田中早苗

学位論文内容の要旨

慢性関節リウマチで最も特徴的变化を生ずるのは関節である。この関節局所の病的変化を関節液の面から研究する目的で、Sephadex G 200による gel filtration を中心に分析を行ない、さらに滲紙電気泳動法による分析も行なった。滲紙電気泳動法によると慢性関節リウマチ患者の血清と関節液の間には質的差異は認めないが、各分画の蛋白比を見ると、 γ -グロブリンの増加が関節液で認められた。

本研究で明らかになった点は、関節液も血清と同様に3分画に分れた事実である。そして超遠心機分析では関節液、血清ともに第1分画が19S、第2分画が7S、第3分画が4Sで、両者の対応分画の間に沈降恒数の差を認めなかった。そしてリウマチ反応は血清の場合と同様関節液でも第1分画(19S分画)にのみ陽性を認めた。この事により、関節液中の19S分画にのみリウマチ反応陽性物質が存在する事を認めた。次いで関節液のみについて慢性関節リウマチ以外の他疾患と比較するに、第1、第2分画、特に第1分画の蛋白増加が著明であった。さらに、慢性関節リウマチの関節液中の総蛋白量と gel filtration 法による第2分画との間に相関を認め、この事は慢性関節リウマチの際の滲紙電気泳動法での関節液中の γ -グロブリン分画比率の増加と併せ考えて、関節液中の蛋白は血清蛋白と互いに交流を有するものである、と言う考えの他に、関節局所での γ -グロブリン(主として7S成分)の産生があるものと考えられる。

(昭和43年2月 Acta Medicine Okayama 第22巻1号掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は、慢性関節リウマチに最も特長的な変化を生ずる関節液の蛋白分析を行ない、リウマチ因子が血清と同様に19S γ -Globulin にも存在することを認め、かつリウマチ因子の抗原性に関連して慢性関節リウマチの際7S γ -Globulin が関節液に増加していることを認めている。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。